

許せない！義援金詐欺 諫早市

回覧板網で募金要請

諫早市自治会 開門阻止を支援

【3月25日・朝日】国営諫早湾干拓事業をめぐり、諫早市民の一部が国を相手に起こす開門差し止め訴訟の支援費用に使う募金の呼びかけを、同市自治会連合会が回覧板と共に回していることがわかった。会は「募金は強制ではない」とするが、開門推進派の市民からは中止を求めている。

会によると、集金は17日の役員会で決めた。開門阻止行動のために100円以上の募金を求め、東日本大震災災害地への150円以上の義援金などと一緒に各世帯へ呼びかけている町内もある。

約3千万円を目標に訴訟費用を集めている支援団体の会長を兼務する芦塚末光・市自治会連合会長は「連合会は昨年5月の総会で開門反対の決議を機関決定している。ただし開門に賛否が分かれている現状を踏まえ、募金の強制はしていない」と説明する。

これに対し市民や共産党市議らは「開門反対は市民の総意ではないので自治会回覧ルートを使った募金は直ちにやめるべきだ」と訴えている。

諫早開門阻止訴訟 回覧板で費用募る

【3月24日・毎日】国営諫早湾干拓事業の開門問題で、諫早市自治会連合会が回覧板で訴訟費用を集めていることが分かり、共産党県中部地区委員会が23日「回覧板での募金集めは公共性を逸脱している」として募金中止を求めた。だが、連合会の芦塚末光会長は「自治会として開門反対を組織決定している」と応じなかった。

連合会は開門阻止の訴訟を決めている市民団体「諫早湾干拓事業及び地域住民を守る会」の構成団体。訴訟費用は約3000万円とされ、連合会も負担するため、一部自治会で「1世帯100円以上」の募金案内が回覧板とともに回った。抗議した寺田敏之委員長は「震災の義援金なら理解できるが、開門の賛否は市内でも分かれており、今後中止を訴えたい」と話した。

開門阻止訴訟募金 震災義援金とセツ トで集める不見識

【3月26日・長崎新聞】国営諫早湾干拓事業の開門差し止め訴訟をめぐり、諫早市自治会連合会（芦塚末光会長）が、訴訟支援に充てる募金の呼び掛けを回覧板とともに各世帯に回していることが分かり、開門を求める市民団体が25日、募金中止を申し入れた。

1世帯100円以上を依頼。東日本大震災の被災地への募金などと一緒呼び掛けている自治会もある。

申し入れたのは諫早湾干拓開門調査を求める諫早市民の会（山口八郎代表世話人）など。「政治的問題への自治会介入は地域社会の向こう三軒両隣の支え合いに亀裂を持ちこむ行為」と非難し、「東日本大震災とセツトで支援を訴えるのは不見識」としている。

連合会は差し止め訴訟を支援する市民団体の構成団体。昨年の総会で開門反対を決議し、芦塚会長は市民団体の会長を兼務。申し入れ書を受け取った同連合会の中島重雄事務局長は「募金は強制ではない。大震災の募金とたまたま一緒になった」と話し、中止するかは「今後検討したい」とした。

東日本震災義援金 としか伝えず

実情は強制 開門阻止訴訟

東日本震災の義援金と称して開門阻止訴訟の費用を集めている問題について諫早市民から怒りの声が湧きあがっている。◆自分も1000円カンパしたが、東日本震災の義援金としか聞いていない。開門阻止訴訟の弁護士費用と知っていたらカンパはしなかった。◆自治会の役員をしているが、うちの町内では予め集めた町内会費の中から自動的に開門阻止訴訟の費用を出している。住民たちには開門阻止訴訟に使うことは知らせていない。◆東日本震災の義援金と思って募金したのにその3分の1が開門阻止の弁護士費用に充てられるなんて。人の善意に漬り込んだ義援金詐欺としか思えない◆諫早市や自治会がやることはもう信じられない◆諫早市民であることが恥ずかしくなる◆開門訴訟を戦った漁民や弁護士が手弁当で活動し必死になって印刷代等を集めていたのを知っている。諫早市の自治会が市民を騙すような形で訴訟費用を集めているのを知って怒りが収まらない◆言語道断の行為◆募金を集めに来た自治会の役員さんは東日本大震災の義援金としか言っていなかった◆開門阻止訴訟のために使うという説明は一切なかった◆今からでも金を返して欲しい◆今でも諫早市民は事実を知らされずに東日本大震災の義援金と思ってカンパしている◆諫早市民にも水門を開けて欲しいと思っっている人は大勢いる